

# 都市再生整備計画(第6回変更)

しもまがりこう  
下鈎甲地区

しが 滋賀県 りっとうし 栗東市

平成22年3月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	滋賀県	市町村名	栗東市	地区名	下鉤甲地区	面積	23.6 ha
計画期間	平成 17 年度 ~ 平成 21 年度	交付期間	平成 17 年度 ~ 平成 21 年度				

**目標**

大目標：地域の個性を活かしつつ、誰もが安全かつ快適に住み続けることができる居住環境の創造

目標1：老人や子供等全ての人々が安心して住める空間と、緊急時の対応が可能なまちづくり 生活道路、地域防災施設等の整備・改善による安全性の確保

目標2：豊かな自然環境を保全し、子供たちのこころのふるさととして生き続けるまちづくり 公共施設等での自然の演出と修景整備による良好な街並み環境の創造

**目標設定の根拠**

**まちづくりの経緯及び現況**

下鉤甲地区は栗東市の都市軸として位置づけられる主要地方道栗東志那中線に隣接し、東側をJR東海道新幹線、西側を大規模な工場群に囲まれた既存集落である。その立地特性から昭和30年以降、周辺地区における著しい都市化の影響を大きく受けてきた地区であり、地区内では通過交通の発生等周辺の都市化に起因するものや、既存集落という性格上、地区が潜在的にあわせ持つ生活環境上の様々な課題（狭隘な生活道路等）が顕在化している。

上位計画である第4次栗東市総合計画において、本地区は緑や景観に配慮した安全で快適な住環境創出する地区として位置づけられているが、平成22年度には近接部でJR東海道新幹線（仮称）びわこ栗東駅が開業する予定であり、これに伴い周辺部で土地区画整理事業（栗東新都心地区）が実施される等、更なる周辺地区での都市化や交通量の増大による居住環境への影響が懸念されているところである。

このような中、本地区では平成10年度以降、「下鉤甲自治会」や「下鉤甲まちづくり委員会」が主体となって、地区の実態の把握や現状における課題の整理、安全で快適な居住環境の創出に向けた具体的なまちづくり方策等に関する様々な検討（ワークショップ（H13年度、計3回、述べ160名の参加）や住民アンケート調査（H15年度、計2回、述べ800人の回答）、協議方式（述べ50回以上）による検討）を重ねており、平成14年3月には、この成果を「下鉤甲まちづくり計画」としてまとめている。更に平成15年度には、この「まちづくり計画」をベースに分野別の専門部会を設置、計画内容の深度化を図る中でこの成果を「要望書」として市に提示、これを受理している。

また、本地区は平成15年6月、「くらしのみちゾーン」に地区登録され、くらしの未知普請委員会を設立、計16回の会合を重ねると共に具体的なまちづくり施策の実施に向けた社会実験（走行車両のスピードを落とすためのハンプの設置、通過交通を減らすための一方通行の交通規制の実施、集落内への進入車両を減らすための特定道路への進入の規制等）を官民協働の基に実施している。（地域住民120余名が参加）

都市再生整備計画の作成にあたっては、上記「社会実験」の結果を基に、地域住民自らが本地区に適した効果のある施策を検討し、整備に対する方向性を導き出している。また、まちづくりの目標を定量化する指標（従前値と目標値）については住民アンケート（区域内世帯の80%に及び334世帯の回答）も実施し、これを計画に反映している。

**課題**

- ・地区内主要道路では、狭隘、歩車分離の皆無、通過交通の流入、通学路としての指定といった条件が重なり、日常的に危険な状況となっている。（地区内主要道路における通過交通の抑制と車両走行速度の低減による交通安全性の確保。）
- ・既存集落内道路は、そのほとんどが4m未満であり、隅切りも不備なことから交通安全性や緊急時の対応に支障をきたしている。（既存集落内道路等の整備・改善による交通安全性の確保と、災害時・緊急時に強い市街地環境整備。）
- ・地区内の生活道路は、一部を除き画一的なアスファルト舗装であり、街並みとしての個性が十分に発揮されていない。地区内には歴史的雰囲気のある街並みも多く存在することから、これらと調和した個性あるまちづくりが求められている。（地区内にある歴史的・自然的資源の活用と、これと調和した個性と快適性のある街並み空間（景観）の創出。）
- ・地区住民の憩いの場、コミュニティ形成の場となる空間（公園や水路、生活道路等）の機能が十分に発揮されていない。

**将来ビジョン(中長期)**

憩いと潤いのある生活環境と栗東新都心の都市機能（利便性）を享受する環境良好な住宅市街地

- ・第4次栗東市総合計画においては、緑や景観に配慮した安全で快適な住環境を創出する地区として位置づけられている。
- ・都市計画マスタープランにおいては、JR栗東駅やJR東海道新幹線（仮称）びわこ栗東駅周辺などの拠点の近接地に位置する利便性を活かした緑豊かな住宅地を形成する地区として位置づけられている。

**目標を定量化する指標**

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
				基準年度	目標年度	基準年度	目標年度
集落周辺部の交通量の低減	台/12h	特定道路における通過交通量(実態調査より)	周辺から通過交通が流入し危険な状況にあることに対して、通過交通量の2割以上減の実現を目指す。	4,000台/12h	H15	3,000台/12h	H21
通過車両の走行速度の低減	km/h	特定道路における通過車両の走行速度(実態調査より)	通過車両の走行速度が速く危険な状況にあることに対して、走行速度の2割以上減の実現を目指す。	40km/h	H15	30km/h	H21
安全に歩ける道路率	%	地域住民が感じる安全な道路の割合(アンケート調査より)	狭隘な生活道路等、道路環境が不十分なことに対して、地区住民の望む効果の実現を目指す。	20%	H16	60%	H21
良好な居住環境と安心への満足度	%	地域住民による居住環境等への満足度(アンケート調査より)	道路環境、居住環境が不十分なことに対して、地区住民が望む理想的な生活環境(100%の環境)の5割程度を満足できる環境の実現を目指す。	20%	H16	50%	H21
地域コミュニティ活動の頻度	回/年	自治会でされるコミュニティ活動の回数	本計画の実現等によって、まちづくり活動などをはじめとする地域コミュニティ活動回数の2割増の実現を目指す。	20回	H15	25回	H21
集落内道路における緊急車両の通過率	%	集落内道路において緊急車両が通過可能な道路の割合(現状調査より)	集落内道路の幅員が狭い上、交差点部に隅切りが無い為、緊急車両の通過が困難な状況であることに対して、隅切りの設置等により通過可能な道路の整備を目指す。	25%	H15	55%	H21

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p><b>整備方針1:安全、安心の環境整備 ……指標、 、 、 に対応するもの</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・周辺からの通過交通が多い市道国一下鈎線において、通過交通を低減させるための交通規制や狭さく等の設置による歩車共存道路（コミュニティ道路）化を図り、歩行者にとっての安全性と快適性を確保する。</li> <li>・直線区間の長い市道下鈎甲区内2号線において車両走行速度を低減させるハンプ等を設置し、歩行者にとっての安全性と快適性を確保する。</li> <li>・既存集落内狭隘道路の交差点部における隔切りの設置（交差点改良）や、地区内主要道路にアクセスする道路の新設等により緊急時等にも十分に対応できる道路機能を確保すると共に、早急な消火活動を可能とする防火水槽を整備し、安全・安心な居住環境を創出する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国一下鈎線歩車共存道路整備事業：道路（基幹事業）</li> <li>・下鈎甲区内2号線ハンプ設置事業：道路（基幹事業）</li> <li>・交通社会実験（ハンプの路面表示）：まちづくり活動推進事業（提案事業）</li> <li>・下鈎南線交差点改良事業：道路（基幹事業）</li> <li>・集落内生活道路交差点改良事業：道路（基幹事業）</li> <li>・下鈎甲公民館線延伸事業：道路（基幹事業）</li> <li>・下鈎下浜田線交差点改良事業：道路（基幹事業）</li> <li>・耐震性貯水槽整備事業：地域生活基盤施設/地域防災施設（基幹事業）</li> </ul> <p>集落内生活道路は次の3路線 下鈎甲区内1号線、下鈎甲公民館線、下鈎称名寺線</p>
<p><b>整備方針2:憩いと潤いの環境整備 ……指標、 に対応するもの</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然的・歴史的資源の残る集落環境と調和した道路の高品質空間整備や地区内を流れる水路の修景整備を図り、憩いと潤いに満ちた居住環境を創出すると共に、集落内道路のコミュニティ空間としての機能創出を図る。</li> <li>・修景整備された水路には、「鯉」や「鴨」などの放流等を行い、豊かな自然環境を創出する。</li> <li>・地区内の既存の公園において、既存の使われ方を十分に踏まえた上で遊具や植栽、休憩施設等の設置を図り、本来公園が持つコミュニティ形成機能や、憩いの空間としての機能強化・充実を図る。</li> <li>・これらの具体的施策の展開により住民の地域への愛着がより一層醸成され、街並み美化や景観向上に向けた自治会活動のより一層の活発化を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集落内生活道路修景整備事業：高質空間形成施設/緑化施設等（基幹事業）</li> <li>・水路自然護岸整備事業：高質空間形成施設/緑化施設等（基幹事業）</li> <li>・第1公園等公園施設整備事業：公園（基幹事業）</li> <li>・まちづくり啓発事業（啓発・研修等）：まちづくり活動推進事業（提案事業）</li> </ul> <p>集落内生活道路は次の3路線 下鈎甲区内1号線、下鈎甲公民館線、下鈎称名寺線</p> <p>この他、住民等のまちづくり活動と協働した事業として以下のものを実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集落内水路における鯉・鴨の放流</li> <li>・集落内道路におけるフラワーボットの設置</li> </ul> <p>（いずれも下鈎甲自治会、下鈎甲まちづくり委員会との協働）</p>
<p>その他</p> <p><b>事業終了後の継続的なまちづくり活動</b></p> <p>本地区では従来から、地元の自治会やまちづくり協議会が主体となって、よりよい居住環境の創出に向けた様々なまちづくり活動を展開してきている。本事業終了後においても、まちの維持・管理活動や環境整備に関するハード・ソフト両面での事業、本事業で整備されるコミュニティ空間（公園や生活道路、水路等）を活用した様々なイベント（青空市場、農業祭等）などを継続的に展開していく。</p> <p><b>交付期間中の計画の管理について</b></p> <p>交付期間中において、各事業を円滑に進め、目標に向けて確実な成果を上げるために、自治会住民会議による事業成果等のモニタリングを年2回実施する。あわせてモニタリングの結果や事業の進捗等については自治会広報誌により公表（年3回）する他、必要に応じて随時市民に情報を公開する。また、毎年事業の着手前には当該年度の事業概要についての説明会を実施する。</p>	



都市再生整備計画の区域

下鉤甲地区(滋賀県栗東市)	面積	23.6 ha	区域	下鉤の一部
---------------	----	---------	----	-------

